

## 平成28年度 あおぞら共生会 事業方針

理事長 明石邦彦

昨年度の法人運営は色々な課題が山積し、その解決のために振り回された感があります。平成28年度は引き続き、それらの解決を図りながら着実に一步一步を進めたく思います。それでは平成27年度目標であった4項目について、その成果と反省を取りまとめました。

### (平成27年度 目標と反省)

#### ① 組織強化による支援の質の向上

当法人の事業は10事業となり、職員の数も増えました。職員のレベルアップのため各部署で行われている支援会議や職員会議で問題解決能力アップに努めました。特に、自閉症の利用者が多いグループホームや作業所には視覚的な支援を取り上げながら、合理的な配慮を行うモデル職場作りを目指しました。しかしながら、まだまだの感がいたします。あおぞらハウスでは利用者に混乱や事故が発生しないように利用者の動線や作業場所に着目し、室内の改装を行い、取り組みました。

#### ② 意思疎通の充実

支援員同士の意思疎通を図るためにそれぞれの部署で会議が行われています。これからの時代は課題を解決する能力と意思疎通を図るコミュニケーション能力の向上が求められます。そのため新人研修・中堅リーダー研修を行い、法人の歩みや理念を理解してもらうとともに今後のやるべきことを検討しました。活発に議論できる場づくりを目指します。

#### ③ 後継者探し（及び育成）

3役の全員が70歳を超えることになりました。あおぞら共生会としては新たなリーダー育成が急務です。中核リーダーには組織の目指す方向などを論議していただくとともに課題解決に向けての提言していただき、3役を交えて検討しました。また、外部コンサルタントの安室さんをお迎えして「助け合う組織文化の作り手としてのリーダーシップ」と題して研修を実施しました。いずれにしてもトップダウンばかりでなく、ボトムアップを重視した環境を醸成し、後継者育成につなげています。

#### ① 国家資格取得の推進

平成27年度で旧来の介護福祉士の受験資格は最後でした。何人かの人が受験にチャレンジされました。合格者は〇〇人でした。また、国家資格のみではなく、初任者研修やサービス管理責任者資格等の取得にも積極的に取り組みました。

さて、今期はグループホームで課題の多い年でした。まず、4月にグループホームで世話人が利用者の預金通帳から現金を引き出す事件が発生しました（H27. 5理事会で報告済み）。その為に、グループホームに限らず、すべての事業所で現金管理を厳しくしました。金庫の現金も最少額を設定して管理しています。また、6月に労基署の立ち入りがあ

り、勤務体制の変更を行いました。さらに、11月にウイズの移転のためセソールマンションを購入し、入居しようとした所、セソール管理組合より工事ストップがかかり、1月中の入居がかないませんでした。セソール管理組合より許可が下り、3月中には入居できることになりました。

## (H28年度 事業目標)

前年度からの積み残しの課題がありますが、来期は次のような目標を立て、取り組みます。

### ① 社会福祉法人制度改革に則した定款変更への準備

平成25年度より社会福祉法人の規制改革が論議され、平成27年2月に社会保障審議会福祉部より報告書が出されました。中身は経営組織の在り方の見直しや、運営の透明性の確保、内部留保の明確化と福祉サービスへの再投下、行政の役割と関与の在り方などです。そして、「社会福祉法等の一部改正をする法律案」が国会へ提出され、衆議院を通過しました。この2月から参議院で審議される予定です。平成29年度から実施されますので、この法律に沿っての対応が必要となります。特に、理事会と評議員会の役割が違ってきますので、このための変更を行わなければなりません。

### ② 後継者の育成

前期にも掲げましたように後継者育成は当法人にとって大きな課題です。私どもは法人の進むべき道を議論しながら次の世代の人にバトンタッチを行いたく思います。そのためには事業方針や人材育成の課題抽出とその対応が重要となります。特に、中核リーダーの方々には相互に協力し合いながら新しい世界を生み出していきたいと考えています。

### ③ 支援技術の向上

平成28年4月から障害者差別解消法が施行されます。この法律の趣旨は障害者が分け隔てなく地域で暮らせるように、また、基本的な人権が侵害されないように、さらに、障害のない人との平等を確保するために合理的な配慮が必要である等と謳われています。このことは利用者支援が基本的人権や平等権が意識されているかが問われます。昨年度、グループホームでは「権利擁護と合理的配慮」の研修を行いました。さしずめ、対等な立場で利用者に接するためには「さん」付けの徹底が必要です。そして、利用者ニーズを掘り起こしながら利用者の意思を尊重した支援を実施する所存です。

私たちの組織はまだまだ解決せねばならない課題の多い組織です。これからも皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。